

日交研シリーズ A-718  
平成 29 年度自主研究プロジェクト  
「交通サービスの革新と都市交通計画」  
刊行：2018 年 5 月

交通サービスの革新と都市交通計画  
Innovations in Transportation Services and Urban Transportation Planning

主査：高見 淳史（東京大学准教授）

Takami Kiyoshi

要 旨

コンパクトシティ・プラス・ネットワークを目指す計画制度の変革とともに、新しい交通技術、交通インフラ、交通サービスが登場しつつある昨今、都市交通計画は大きな転換点にある。本研究ではこの動向を踏まえつつ、新しい交通サービスを都市の中へ受け入れるにあたっての計画論に関して検討を深めることを目的として進めた。

第一に、2018 TRB Annual Meeting やその他セミナーなどから、Mobility as a Service (MaaS) をはじめとする新しい交通サービスの動向ならびに交通や都市への影響に関する研究動向の情報を収集し、課題や展望を整理した。また、それらの社会や都市（街路）空間への受け止め方に関し、“Autonomous Urbanism” など海外の 2 つの提案事例の内容を整理した。

第二に、わが国大都市圏郊外部における統合モビリティサービス（IMS）の実装方法として Metro-MaaS を提案し、SP 調査に基づく需要評価を行った。また、仮想的な Metro-MaaS サービスを対象に、価格やオペレーターサービス供給者間の契約形式の違いが各主体の収益に与える影響を、研究メンバーの藤垣らが提案している Multi-Cycle Model の枠組みを用いて分析し、この枠組みの 1 つの適用性を示した。

第三に、横浜国立大学 COI プログラムにおけるモビリティ分野の研究・開発の状況を報告するとともに、マルチモーダル情報提供サービスや協働・共有型モビリティなど多様な交通サービスを支える技術開発や提供方法のあり方について検討した。

以上のほか、研究会で議論した中から、市町村都市計画マスタープランの分析に基づく広域的視点から見た新交通サービス導入の課題に関する報告をまとめている。

キーワード： 交通サービス、自動運転車両、統合モビリティサービス

Keywords: Transport Service, Autonomous Vehicle, Integrated Mobility Service